

介護従事者に対する 新型コロナウイルスワクチン接種推進の 取り組み報告 ～エナガの会の活動より～

山本哲也（特定非営利活動法人エナガの会）

清水弘喜（株式会社フォレストケア）

藤久和（神戸掖済会病院）

藤井芳夫（藤井内科クリニック）

中村治正（なかむらクリニック）

発表者のCOI開示

演題発表に関連し、発表者らに開示すべき

COI関係にある企業などはありません

- 病院から在宅まで患者家族を支えるケア
- 地域で関わる他の職種との連携強化を！



エナガの会

検索



神戸西医療・介護地域ケアネット
(エナガの会) 2009.03

私たちの思い

「紙切れ1枚の行き来だけになっていないか？担当者の顔も知らない・・・」
こんなこと感じたことはありませんか？

○どうすれば、充実した連携ができるのか？

○どうすれば、医療と介護の壁を越えて、連携ができるのか？

○どうすれば、在宅の患者さんが、安心できるよう支援できるのか？

それぞれの職種がお互いを理解し、繋がりをつくることで、より良い地域での支援体制を提供できるのではないかと、病院、クリニックの医師、看護師、歯科医師、薬剤師、ケアマネジャーなど10数名が集まり、2009年3月に多職種連携の会、「神戸西医療・介護地域ケアネットワーク」（通称「エナガの会」）がスタートしました。助け合って子育てや巣作りをおこなうことから「ヘルパーバード」ともよばれている野鳥、エナガに、皆が助け合う気持ちを重ね合わせています。

そして、2017年9月にさらに活動を充実させるため、NPO法人として、新たにスタートを切りました。地域連携は1日にしてならず。地域にはそれぞれの分野で素晴らしい人材が沢山おられます。その人たちとの小さな輪を繋げて大きな力にしたいのです。私達の活動に賛同して下さる方は、いつでもご連絡下さい。また、私達が実践してきた地域活動のノウハウも提供致します。今こそ、共に活動しましょう！

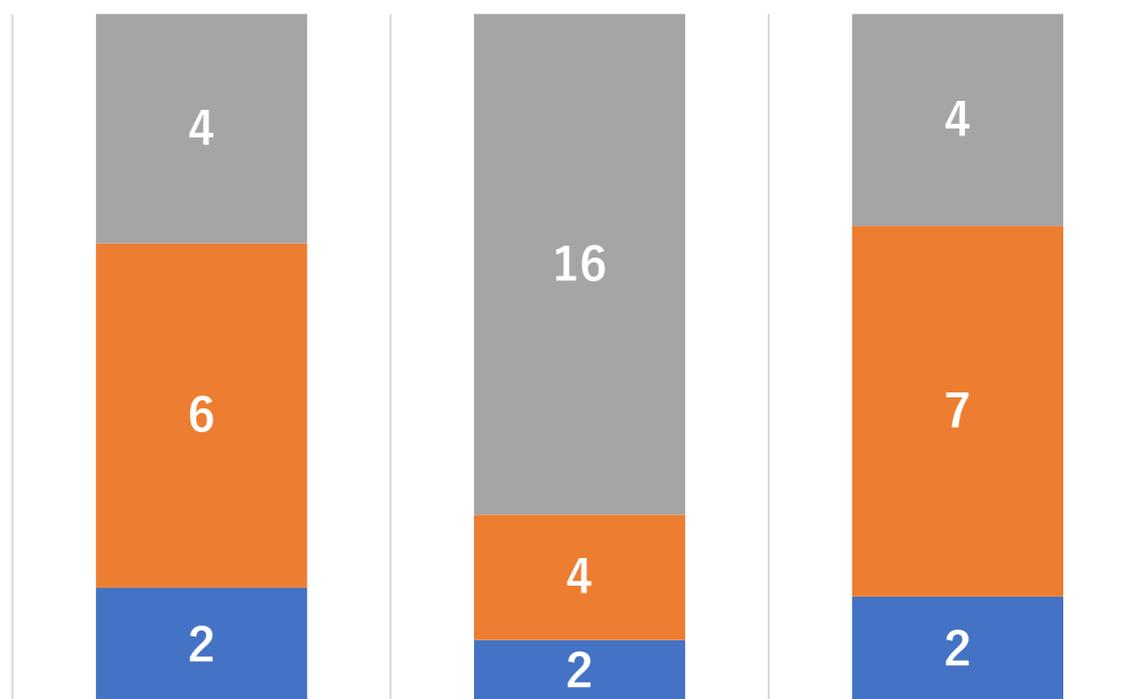
介護施設向けアンケート

- 令和3年6月実施
- FAXにて垂水区内のグループホーム（GH）、サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）、有料老人ホーム（有料）へ送付
- FAXにて返信する形での回答
- 回答率
 - サ高住 12件/14件（86%）
 - GH 22件/25件（88%）
 - 有料 13件/24件（54%）

接種しているかどうか？

利用者

■ 全員接種 ■ 一部接種 ■ 全員未接種



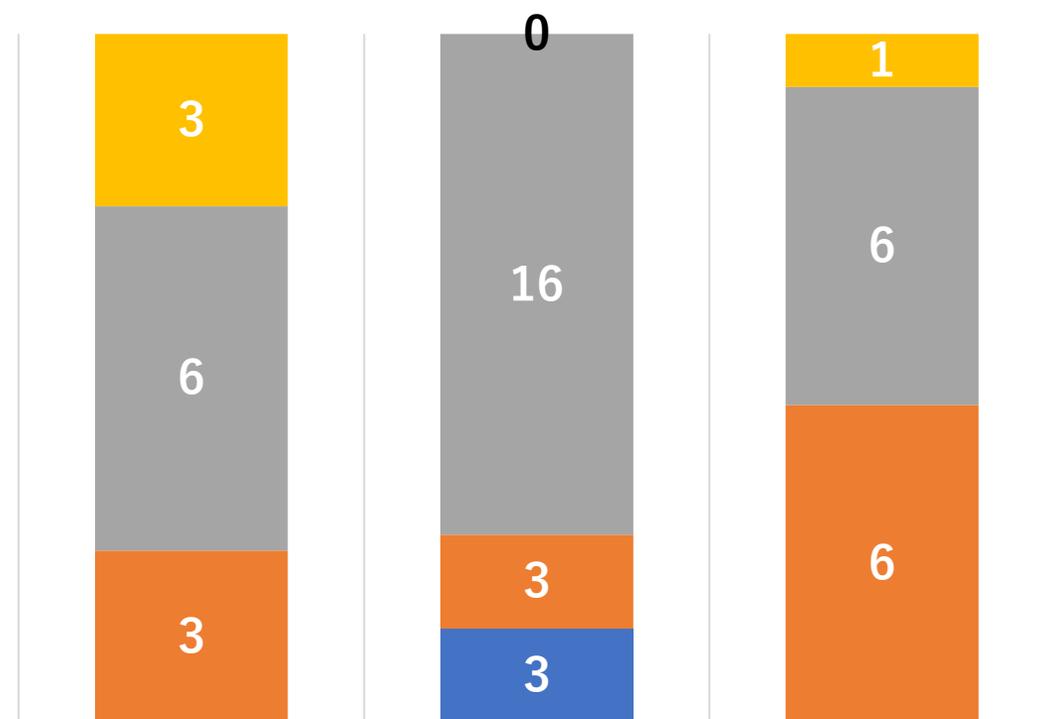
サ高住

GH

有料

職員

■ 全員接種 ■ 一部接種 ■ 全員未接種 ■ 未回答



サ高住

GH

有料

通所介護事業所への ワクチン接種希望調査

- 6月14日にFAXにて垂水区内の通所介護事業所80施設にワクチン接種希望の有無の回答を依頼
- インターネット（グーグルフォーム）を活用して希望の有無を回答
- 回答が少なかつたため期限直前に回答のない事業所へ電話にてフォロー実施

- 1回目の接種：7/1～7/16 15:30～16:30
- 2回目の接種：1回目の接種の3週間後
- FAXにて日程の予約

通所介護事業所への ワクチン接種希望調査

- 41施設より回答あり
- 24施設より1名以上の従業員の接種の希望あり
(最少1名、最多17名)
- 合計170名の接種希望者

- 想定よりも少なかったため、訪問介護・居宅介護支援・小規模多機能居宅介護等の事業所への募集も実施
- 最終的に243名の申込あり

考察 1

- 予約の募集を開始した段階では大規模接種会場（ノエビア・ハーバーランド）以外は予約が取りにくい状況であった
- 介護スタッフは勤務を継続しながらワクチン接種をする必要があり、遠方での接種は困難な状況であった
- 厚生労働所の通知では新型コロナウイルス感染者へのサービスの提供を実施する介護事業所の介護従事者のみ優先接種を認める通知あり⇒介護従事者に予約しにくい心理状況があった

(参考)

市町村は、以下の①から③のすべてに該当する場合、居宅サービス事業所等及び訪問サービス事業所等の従事者を「高齢者施設等の従事者」に含めて、優先接種の対象とすることが可能。

① 市町村が、必要に応じて都道府県に相談した上で、地域の感染状況、医療提供体制の状況等を踏まえ、感染が拡大し

○比較的近隣で接種可能ということで接種しやすかった

○何日かに分けて順番に接種ができたので対応しやすかった

○神戸市に、介護従事者であれば臨機応変に対応可と確認。

⇒案内文書にも条件はワクチン接種券の届いている介護従事者と明示して募集

考察 2

- 想定より接種希望者が少なかった
- FAXの送信の案内がメインでありDMと思われた
- 「エナガの会」を知らない人は申し込みにくかった
 - そのため、訪問介護事業所等への2度目の発信時は、日頃から連携のあるケアマネジャーの職能団体と、区の介護サービス事業所連絡会（通称：T-ライン）も案内書面に明記して発信し、反応を改善した
- 最初の数日に予約が集中し予約が取りにくいことがあった

介護従事者の想い

- 目の前のご利用者を守るべき我々が感染源になるかもしれないという強い不安が続いていた。
- ワクチン接種という希望の光が見えながら、遅々として接種が進まない状況に焦り、さらに不安が増していた。

医療従事者の想い

- 新型コロナの感染者が増えており、対応が困難になっている。介護施設のクラスター報告が多数あり、感染者が増える原因となっている。
- 介護施設の職員などにワクチン接種を進めることで、感染拡大を防ぎたい。

考察 3

- 接種をできるだけ早くしたい介護従事者の想いと、接種を進めることで一人でも患者を減らしたい医療機関の想いが一致しているにも関わらず直接コミュニケーションをとる機会は少ない
- 普段から多職種が顔の見える関係を作っておくことでお互いの想いに気づきそれに対する対策を実施することができる
- 多職種の関係を結びつけるための組織が地域での具体的な活動をサポートするのには有用である

最後に . . .

- この取り組みによってどれほどの感染者を減らせたか、クラスターを減らせたか、などの具体的なデータは調査していないためわかりません
- 7月から9月にかけては全国的な感染拡大もありました
- 今後も新型コロナウイルスの感染が拡大する可能性は高いです
- 地域の医療・介護・福祉の専門家が連携して対応することが地域でのコロナ対策には有効であると考えます